

四つの門

やさしさの門 たしかさの門 きびしさの門 ゆたかさの門

平成30年度
瑞浪中学校 学校通信

文化は集団によって磨かれ、

集団は文化によって高められる

校長 藤井 雅明

今年は、天候不順や暑さ指数、低体温症を気にしての体育大会となりましたので、一部競技（大縄）を前日に行い短縮日程の開催としました。が、今年も素晴らしい体育大会ができました。その中で応援発表についてお話しします。

応援は練習時間も少ないので、団のまとまりを作ることが難しいのではないかと心配をしていましたが、短い期間で見事な応援を創ってくれました。各軍ともに、校歌を全力で歌い、軍リーダーがダンス的要素をたっぷり取り入れた応援発表を行いました。中には、団席の立体変化や異時動作を巧みに取り入れた軍もあり、軍リーダーだけでなく、団員全員が動くといった変化がありました。今後さらに団席の空間構成を磨くと面白いと感じていますが、ともかく今年も、それぞれ工夫を凝らしリズムカルでユーモアな動きをつくってくれました。

今まで不思議に思っていたことがあります。応援発表は、点数が入りません。それなのに本校の生徒はどのようなわけか応援に力を入れます。それはなぜだろうといつも不思議に思っていたのですが、一つの答えが出ました。それは、こういった演技をプロデュースすることの楽しさを生徒が味わっているということです。保健体育の授業で創作ダンスが取り入れられていることや、地域にある「七夕祭り」での「バササ踊り」、テレビ等でのダンスパフォーマンスなどの影響から、生徒は応援のイメージを捉え変化のあるひとまとまりの表現を楽しむことを味わっているのです。

このような応援をプロデュースできる生徒たちの能力、そのリーダーたちの指示に答えフォローしていく多くの生徒たちの姿がとてもまぶしく素晴らしいと感じました。

この「応援発表」は30年ほど前に行われていた「エール交換」が発展してできたものととらえています。瑞中の長い歴史と伝統に裏打ちされた『瑞中文化』の一つになっていると思います。そして、今年の体育大会も生徒たちの力によってさらに洗練されましたし、生徒たちもこの体育大会の取り組みを通して一段と成長させてもらったと思います。次は合唱という文化を高めることで、生徒の力が高まることを期待しています。

体育大会は、生徒にとって心躍るドラマチックな一日ですが、それを支える私たち教師にとっても数々のドラマがありました。残暑厳しい夏休み後半、応援担当の教師たちは軍リーダーたちとともに「応援の産みの苦しみ」を味わっていました。職員室では、リーダーを務める生徒たちの熱い思いを他の生徒に伝え、応援や競技がうまく動いていくにはと悩みをぶつけ解決策を生み出していく教師の姿がみられました。また、当日の早朝、暗いうちから、グラウンドにできた水たまりを泥まみれになりながらもスポンジで吸い取る教師たちの姿があったことも付け加えておきます。

最後になりましたが、早朝から駐車場の案内や後片付けまで携わってくださったPTA本部役員の皆様はじめ、後片付け等率先して手伝ってくださった全ての保護者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。

